



飯川雄大《デコレータークラブ ―0人もしくは1人以上の観客に向けて》
彫刻の森美術館、アートホール 2022年 撮影：山下三千夫

飯川雄大 デコレータークラブ

同時に起きる、もしくは遅れて気づく

likawa Takehiro

DECORATOR CRAB

“Occurring simultaneously or awareness being delayed”

2022.7.30 - 2023.4.2

開催趣旨

彫刻の森美術館では、現代の新しい創作表現を紹介するシリーズの第8回として、「飯川雄大 デコレータークラブ 同時に起きる、もしくは遅れて気づく」を開催しています。本シリーズは、コロナ禍を経て、4年ぶりの開催となります。

兵庫県神戸市出身の飯川は、言語や画像を用いた中にも生じる伝達の曖昧さ、感覚の共有不可能性について問い続けてきました。鑑賞者が気づきの中から湧き起こるイメージを繋げ、多様な認識を生み出すことを期待して制作しています。2022年は国立国際美術館でのグループ展「感覚の領域 今、「経験する」ということ」の参加や、兵庫県立美術で個展「デコレータークラブ メイクスペース、ユーズスペース」を開催するなど、近年活躍が目覚ましいアーティストの1人です。

本展では、飯川が2007年から展開している〈デコレータークラブ〉シリーズの新作インスタレーションを中心に展示しています。鑑賞者が作品に能動的に関わることで変容していく空間や物が、別の場所で起きる同時に見ることはできない事象と繋がるインスタレーション作品《0人もしくは1人以上の観客に向けて》、誰かの忘れ物かのような《ベリーヘビーバッグ》のほか、一目では全貌をとらえることができない彫刻作品《ピンクの猫の小林さん》が木々の中に潜みます。また、過去に発表した映像作品も展示し、作品に通底する飯川の視点にも迫ります。

飯川の作品は、幅広い来館者層へもアプローチする、可愛らしく、接しやすい表層を持ちつつも、人間のコミュニケーションの不完全さや、時には遅効する気づきそのものへの興味に焦点を当てています。鑑賞者の行為によって起きる偶然をポジティブにとらえ、時間や距離が離れた場所にも出来事を送り届けることを試みます。〈デコレータークラブ〉は、見るものに行動と思考を誘発しながら展開していきます。

本展の会期は、約8ヶ月です。季節の移ろいととも、作品の表情も変化していくでしょう。当館の野外美術館の地形や特性を生かして展開していく、飯川の作品を経て、当館の新しい魅力も発見していただけたら幸いです。

展覧会概要

展覧会名：飯川雄大 デコレータークラブ 同時に起きる、もしくは遅れて気づく

アーティスト：飯川雄大

会 期：2022 年 7 月 30 日（土）～ 2023 年 4 月 2 日（日）

会 場：彫刻の森美術館 緑陰広場・アートホール

開館時間：9:00 ～ 17:00（入館は閉館の 30 分前まで）

休 館 日：なし（年中無休）

主 催：彫刻の森美術館（公益財団法人 彫刻の森芸術文化財団）

協 力：アーティファクト、エアー遊具カンパニー（株式会社アールイーナンバー）、株式会社ティーハウス建築設計事務所、
tmsd 萬田隆構造設計事務所、有限会社キューアンドエー、ゆうこうマリン株式会社

助 成：公益財団法人野村財団

出品リスト

会場	No.	作品名	制作年	素材、技法
緑陰広場				
	1	デコレータークラブーピンクの猫の小林さんー	2022	
アートホール				
	2	デコレータークラブー0人もしくは1人以上の観客に向けて	2022	ロープ、滑車、ハンドル
	3	デコレータークラブーベリーヘビーバッグ	2010	バッグ
	4	デコレータークラブ 衝動とその周辺にあるもの	2019	ビデオ、モニター 18 分
	5	時の演習用時計 " ベンチ "	2008	ビデオ、モニター 24 時間
	6	時の演習用時計 " バスケットゴール "	2008	ビデオ、モニター 24 時間
	7	時の演習用時計 " ユニバードーム	2007	ビデオ、モニター 24 時間
	8	時の演習用時計 " キリン "	2007	ビデオ、モニター 24 時間
	9	デコレータークラブの記録	2017-2022	ビデオ、モニター 98 分

※緑陰広場の展示時間：10:00~16:00 状況により、展示期間・鑑賞時間が変更になる場合があります。

彫刻の森美術館について

四季折々の雄大な自然が楽しめる箱根。

彫刻の森美術館は、その自然を生かして 1969 年に開館した、国内で初めての野外美術館です。緑豊かな屋外展示場に、近・現代を代表する彫刻家の名作約 120 点が常設展示されています。また、ピカソ館をはじめとする室内展示場や、子どもたちが体験できる作品、天然温泉の足湯もあり、心豊かな憩いのひとときを過ごすことができます。



彫刻の森美術館（THE HAKONE OPEN-AIR MUSEUM）

運 営：公益財団法人 彫刻の森芸術文化財団

所 在 地：〒250-0493 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平 1121

Tel：0460-82-1161

Fax：0460-82-1169

アクセス：詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

電車 | 小田原駅→小田急線箱根湯本駅→箱根登山鉄道「彫刻の森」駅下車、徒歩 2 分

バス | 小田原駅→小田急線箱根湯本駅→箱根登山、伊豆箱根バス「二の平入口」下車、徒歩 5 分

箱根登山観光施設めぐりバス「彫刻の森」下車

入 館 料：大人 1,600 円、大学・高校生 1,200 円、中学・小学生 800 円、未就学児 無料

※団体割引、障害者割引あり

※学生の方は証明書をご提示ください

※毎週土曜日はファミリー優待日（保護者 1 名につき中学・小学生 5 名まで無料）

関連イベント

・ワークショップ

「飯川雄大さんと《ピンクの猫の小林さん》を作って隠そう！」

日 時：2022 年 10 月 8 日（土） 13:00～14:30

2022 年 10 月 9 日（日） 13:00～14:30

制作場所：丸太広場 キトキ

講 師：美術家 飯川雄大

定 員：各回 12 組 [1 組につき参加者 3 名まで]（要事前申込、先着順）

参加費：1,000 円

対象年齢：どなたでも（小さなお子様は保護者が手伝ってください）



イメージ

飯川さんといっしょに作品を見てから、カラフル粘土で《デコレータークラブーピンクの猫の小林さんー》を作って隠してみよう。

・トークイベント

「デコレータークラブ 不在の写真から観客へ」

出 演：飯川雄大（美術家）× 光田由里（美術評論家・多摩美術大学アートアーカイヴセンター教授）

日 時：2022 年 11 月 19 日（土） 13:30～14:30

会 場：アートホール

定 員：50 名

詳細は展覧会ウェブサイトや SNS でご確認ください。随時、イベントの最新情報を更新していきます。

その他

「今日の小林さん」

《デコレータークラブーピンクの猫の小林さんー》の出現をホームページで毎日更新中。

「飯川雄大オリジナルグッズ」

〈デコレータークラブ〉シリーズの写真集や、T シャツやトートバッグ、クリアファイル、マスキングテープ、ポストカードなどをミュージアムショップで販売。

※売り切れなどにより、グッズがショップにない場合もあります。



作品集 A4 DECORATOR CRAB Expecting Spectator
900 円（税込）



《デコレータークラブーピンクの猫の小林さんー》T シャツ
S,M,L,XL（黒）3,300 円（税込）
S,M,L,XL（ピンク）3,500 円（税込）
100,120,150cm（黒・ピンク）3,300 円（税込）



《デコレータークラブーピンクの猫の小林さんー》トート
A4（黒・ピンク）1,600 円（税込）

「展覧会限定オリジナルガチャ」

アートホールにて販売。「当たり」付き。1 回 500 円

「展覧会記録集」

2022 年 11 月頃、発売予定。

詳細は、展覧会ウェブサイトや SNS でお知らせします。



展覧会限定オリジナルガチャ
1 回 500 円

本展は飯川雄大の代表的なシリーズ〈デコレータークラブ〉から、最新作の大型インスタレーション2点を中心に、美術館の屋外・屋内エリアに展示しています。彫刻の森美術館の中に新しい魅力的な景色を生み出します。

緑陰広場

《デコレータークラブーピンクの猫の小林さんー》 2022 年

鑑賞者は、本作と出会った時に起こる衝動を第三者に伝えようと、撮影のベストポジションを探しますが、なかなかその場所を見つけることができません。本作は巨大なスケールのため、全貌を見たいと遠くから眺めても、木立によって部分が隠れてしまいます。

デジタルカメラとスマートフォンの普及で、誰しもが手軽に自分の感情や行動を発信できる時代になりましたが、心の動きや反応を、相手にどこまで伝えることができているのでしょうか。アーティストは、情報と感動を共有しようとする行為、その伝達の曖昧さについて、意識を志向させる試みを続けます。

※展示時間 10:00 – 16:00 ※状況により、展示期間・鑑賞時間が変更になる場合があります。



《デコレータークラブーピンクの猫の小林さんー》
彫刻の森美術館、緑陰広場 2022 年 撮影：阪中隆文



《デコレータークラブーピンクの猫の小林さんー》
彫刻の森美術館のためのブランドローイング 2021 年

アートホール

《デコレータークラブー0人もしくは1人以上の観客に向けて》 2022 年

室内に設置されたハンドルを回すと目の前のロープが動き出し、その動きに誘因され、美術館のどこかで新たな事象が現れていきます。回した人は作品の要素の一部となりつつも、時間と距離の隔たりによって、離れた場所で展開していく事象を同時に見ることは叶いません。一方で、その事象を偶然目撃した人が、新たな鑑賞者となる可能性が生まれます。身を置く環境の変化を体験するだけでなく、離れた場所で動き出す出来事を想像することは、人や物の関係性、社会の構造をも彷彿させます。



《デコレータークラブー0人もしくは1人以上の観客に向けて》
彫刻の森美術館、アートホール 2022 年 撮影：阪中隆文



《時の演習用時計“ベンチ”》ビデオ、モニター 24 時間
彫刻の森美術館、アートホール 2008 年 撮影：阪中隆文

《デコレータークラブー0人もしくは1人以上の観客に向けて》設置風景
彫刻の森美術館 2022 年 撮影：飯川雄大

〈デコレータークラブ〉シリーズは、世界中の海に生息し擬態する性質を持った蟹の名前「Decorator Crab」に由来しています。昔、この蟹の生態を紹介するテレビ番組を見た時、ダイバーが海の中で何だかわからないモノ（実は蟹）を見つけたときの驚きが僕には全く伝わってこなくて。けど、たくさんの言葉や映像を使っても、どうしても伝えることができない部分があるということが面白かった。蟹は天敵から身を守るため、誰にも見つからないように行動しているだけ。でも、人は勝手に特別な状況だと感じたり、別の価値をつけたり、一方通行のコミュニケーションから新しい要素を生み出している。

今回の展示では、鑑賞者が展示空間で起こす行為によって、別の場所で新たな事象が現れるという作品があります。鑑賞者が、それを同時に把握することはできず、それぞれの出来事に気がつくまでに、距離や時間が必要になる。そのタイミングはすぐかもしれないし、数年後かもしれない。彫刻の森美術館は広いから、その時に見ることはできないかもしれない。でも、〈デコレータークラブ〉は、作品であり体験であり、時や場所を変えてどこでも生み出すことができる。たとえば今すぐここで出会えなくても、別の時間、別の場所で、見てくれた人にきっかけを届けられたらと思います。（飯川雄大）

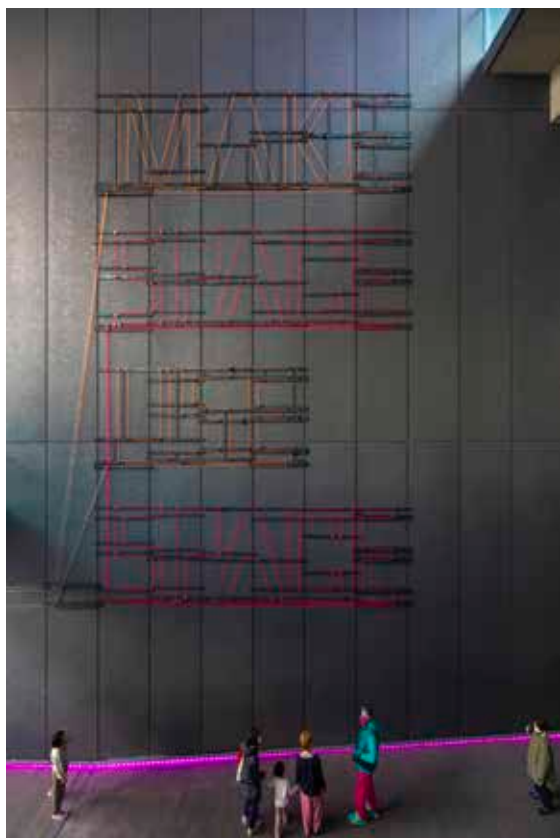


Photo: KAWATA SATOSHI

飯川雄大 ikawa Takehiro

1981 年兵庫県神戸市生まれ。同地を拠点に活動。成安造形大学芸術学部情報デザイン学科ビデオクラスを卒業。2007 年から写真を軸に〈デコレータークラブ〉の制作を始める。個展に「デコレータークラブ メイクスペース、ユーズスペース」（兵庫県立美術館、2022 年）、「つくりかけラボ 04 デコレータークラブ —0 人もしくは 1 人以上の観客に向けて」（千葉市美術館、2021 年）。主なグループ展に「感覚の領域 今、『経験する』ということ」（国立国際美術館、2022 年）、ヨコハマトリエンナーレ 2020「AFTERGLOW 一光の破片をつかまえる」（PLOT 48、2020 年）、「六本木クロッシング 2019 展：つないでみる」（森美術館、2019 年）など多数。

<https://takehiroikawa.tumblr.com>



《デコレータークラブ メイクスペース、ユーズスペース》2022 年
展示風景：兵庫県立美術館 撮影：飯川雄大



《デコレータークラブ —0 人もしくは 1 人以上の観客に向けて》2021 年
展示風景：千葉市美術館 撮影：飯川雄大



《デコレータークラブ —ピンクの猫の小林さん—》2020 年
展示風景：横浜市金沢区並木団地、並木クリニック中庭 撮影：阪中隆文

個展

2022 年「飯川雄大 デコレータークラブ メイクスペース、ユーズスペース」兵庫県立美術館
 2021 年「どこかで? ゲンビ ビデオアート編」広島市現代美術館・鶴見分室 101
 2021 年「つくりかけラボ 04 デコレータークラブー0 人もしくは 1 人以上の観客に向けて」千葉市美術館
 2021 年「ハイライトシーン」ギャラリートラック (京都)
 2020 年「KAAT アトリウム映像プロジェクト vol.15 飯川雄大」KAAT 神奈川芸術劇場
 2020 年「デコレータークラブー知覚を拒む」高松市美術館 (香川)
 2020 年「デコレータークラブーピンクの猫の小林さん」並木クリニック、横浜市金沢区並木団地 (神奈川)
 2020 年「Decoratorcrab -Mr. Kobayashi, The Pink CAT - Park Lane in Taichung City」台中市西區公益路 68 號 (台湾)
 2019 年「デコレータークラブー遠近の設計図ー 県北芸術村推進事業交流型アートプロジェクト 2019」
 高萩市秋山中学校、高萩市高萩中学校、高萩市松岡中学校 (茨城)
 2019 年「デコレータークラブー0 人もしくは 1 人以上の観客に向けて」Art Center Ongoing (東京)
 2018 年「A-Lab Exhibiton Vol.16 飯川雄大 デコレータークラブ 配置・調整・周遊」あまらぶアートラボ A-Lab (兵庫)
 2016 年「ひとりみんなのために」HOTEL ANTEROOM KYOTO GALLERY 9.5 (京都)
 2015 年「ハイライトシーン」高架下スタジオ Site-A ギャラリー (神奈川)
 2013 年「飯川雄大 | 遭遇するとき (たいけんびじゅつかん特別展)」滋賀県立近代美術館ギャラリー

グループ展

2022 年「感覚の領域 今、『経験する』ということ」国立国際美術館 (大阪)
 2021 年「すみだ向島 EXPO2021」京島エリア・元お茶屋 (東京)
 2020 年 ヨコハマトリエンナーレ 2020「AFTERGLOW 一光の破片をつかまえる」PLOT48 (神奈川)
 2019 年「六本木クロッシング 2019 展: つないでみる」森美術館 (東京)
 2019 年「まなざしのスキップ」札幌文化芸術交流センター SCARTS (北海道)
 2017 年「ゲンビどこでも企画公募 2017」広島市現代美術館
 2016 年「六甲ミーツ・アート 芸術散歩 2016」六甲有馬ロープウェー 六甲山頂駅 (兵庫)
 2016 年「デコレータークラブー衝動とその周辺にあるものー シオヤプロジェクト」塩屋東市民公園 (兵庫)
 2016 年「ROLE PLAY」スハラビル 202 号室 (大阪)
 2014 年「私の神さま | あなたの神さま」セイアンアートセンター (滋賀)
 2014 年「テラトセラアートプロジェクトーシビックプライドー」三鷹市周辺 (東京)



《デコレータークラブー0 人もしくは 1 人以上の観客に向けて》2022 年
 展示風景: 「感覚の領域 今、『経験する』ということ」国立国際美術館 撮影: 飯川雄大



《デコレータークラブ 配置・調整・周遊》2020 年
 展示風景: ヨコハマトリエンナーレ 2020「AFTERGLOW 一光の破片をつかまえる」PLOT48 撮影: 飯川雄大



《デコレータークラブーピンクの猫の小林さん》2019 年
 展示風景: 「六本木クロッシング 2019 展: つないでみる」森美術館 撮影: うつわ



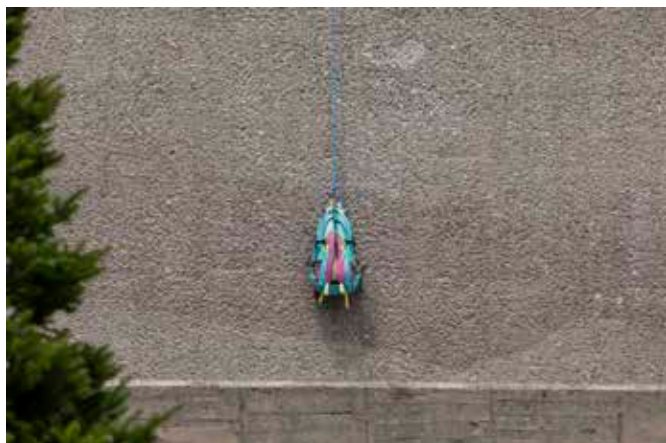
貸出画像 1 飯川雄大《デコレータークラブーピンクの猫の小林さんー》
彫刻の森美術館、緑陰広場 2022年 撮影：阪中隆文



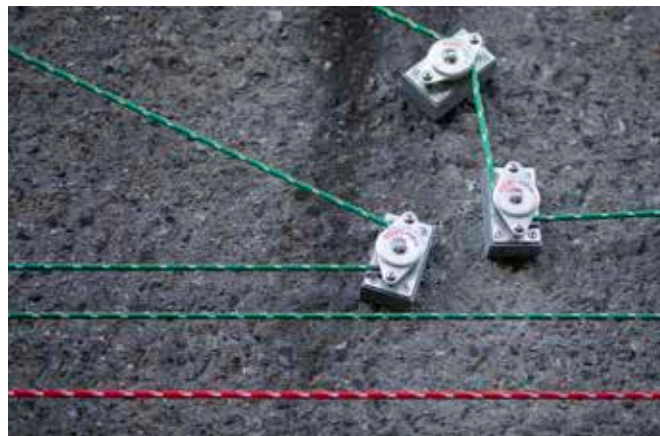
貸出画像 2 飯川雄大《デコレータークラブー0人もしくは1人以上の観客に向けて》
彫刻の森美術館、アートホール 2022年 撮影：阪中隆文



貸出画像 3 飯川雄大《デコレータークラブー0人もしくは1人以上の観客に向けて》
彫刻の森美術館、アートホール 2022年 撮影：山下三千夫



貸出画像 4 飯川雄大《デコレータークラブー0人もしくは1人以上の観客に向けて》
彫刻の森美術館 2022年 撮影：飯川雄大



貸出画像 5 飯川雄大《デコレータークラブー0人もしくは1人以上の観客に向けて》
彫刻の森美術館 2022年 撮影：飯川雄大



貸出画像 6 飯川雄大《時の演習用時計“ベンチ”》
彫刻の森美術館、アートホール 2008年 撮影：阪中隆文



貸出画像 7 飯川雄大《デコレータークラブーピンクの猫の小林さんー》設置風景
彫刻の森美術館、緑陰広場 2022年 撮影：飯川雄大

【広報用画像について】

以下の情報を入れた企画書を press@hakone-oam.or.jp までお送りください。
ダウンロード用 URL をお知らせします。

※お手元に届くまで 1 ～ 2 日ほど頂戴いたしますので、ご了承ください。

媒体情報

- ☐ 媒体名（番組・雑誌名等）
☐ 媒体種類（新聞・雑誌・フリーペーパー・会報誌・社内報・TV・ラジオ・WEB・SNS など）
☐ 掲載・放送予定日 ☐ 参考 URL ☐ 原稿確認予定日 ☐ コピーガード対応

申請者情報

- ☐ 貴社名 ☐ ご担当者名 ☐ メールアドレス

ご掲載にあたっての注意事項（作品画像貸出に関して）

- 作品画像使用時には、「作家名」「作品名」「展示場所」「制作年」「クレジット」を必ず記載してください。

画像キャプション

- 貸出画像 1 ☐ 飯川雄大《デコレータークラブーピンクの猫の小林さんー》
彫刻の森美術館、緑陰広場 2022 年 撮影：阪中隆文
- 貸出画像 2 ☐ 飯川雄大《デコレータークラブー0 人もしくは 1 人以上の観客に向けて》
彫刻の森美術館、アートホール 2022 年 撮影：阪中隆文
- 貸出画像 3 ☐ 飯川雄大《デコレータークラブー0 人もしくは 1 人以上の観客に向けて》
彫刻の森美術館、アートホール 2022 年 撮影：山下三千夫
- 貸出画像 4 ☐ 飯川雄大《デコレータークラブー0 人もしくは 1 人以上の観客に向けて》
彫刻の森美術館 2022 年 撮影：飯川雄大
- 貸出画像 5 ☐ 飯川雄大《デコレータークラブー0 人もしくは 1 人以上の観客に向けて》
彫刻の森美術館 2022 年 撮影：飯川雄大
- 貸出画像 6 ☐ 飯川雄大《時の演習用時計“ベンチ”》
彫刻の森美術館、アートホール 2008 年 撮影：阪中隆文
- 貸出画像 7 ☐ 飯川雄大《デコレータークラブーピンクの猫の小林さんー》設置風景
彫刻の森美術館、緑陰広場 2022 年 撮影：飯川雄大

- ▼参考 「作家名」 飯川雄大
「作品名」 《デコレータークラブーピンクの猫の小林さんー》
「展示場所」 彫刻の森美術館、緑陰広場
「制作年」 2022 年
「クレジット」 撮影：阪中隆文

- 作品画像の加工（着色、トリミング、文字載せなど）はできません。
- 基本情報、画像使用の確認のため、グラ・原稿の段階で「広報担当」までお送りくださいますようお願いいたします。
- 掲載媒体を 1 部以上、もしくは URL、同録（DVD、CD）を「広報担当」宛にお送りください。
- 画像使用は本展覧会の紹介用のみとさせていただきます（会期終了まで）。
- 再放送、転載など二次使用をされる場合には、改めて申請をお願いいたします。

読者プレゼント用チケット（5 組 10 名様）をご希望される方は、☐ にチェックを入れてください。 ☐ 希望する

※チケットは Web サイトへのページアップのご連絡、または掲載誌・紙の到着後の発送となります。

掲載、取材等 内容や詳細に関するお問い合わせ先

彫刻の森美術館 〒250-0493 神奈川県足柄下郡箱根町二ノ平 1121

TEL:0460-82-1161 FAX:0460-82-1169

広報担当：辻井・福岡 press@hakone-oam.or.jp

取材をご希望の方は、取材希望日の 3 営業日前までに上記担当までご連絡ください。